

## 潮間帯における比抵抗探査

### Resitivity survey on the tidal zone

# 笠谷 貴史 [1]; 後藤 忠徳 [2]; 佐藤 壮 [3]; 嶋田 純 [4]

# Takafumi Kasaya[1]; Tada-nori Goto[2]; Sou Satou[3]; Jun Shimada[4]

[1] 海洋研究開発機構; [2] JAMSTEC; [3] 地圏環境テクノ; [4] 熊本大・院・自然

[1] JAMSTEC; [2] JAMSTEC; [3] GET; [4] Grad. Sch. of Sci. & Tech., Kumamoto Univ.

熊本県西部の八代海の海岸域は国内有数の潮汐変動の大きな地域で、干潮時には 100m 以上も海岸線が後退して広い干潟が現れる。淡水の湧水がみられる八代海海底および沿岸域での VLF-MT 調査を実施し、得られた見掛比抵抗と位相差の空間分布から湧水と比抵抗構造との関連を調べた。観測された見掛比抵抗と位相の分布は、表層の地質分布と良い対応を示したが、非常に限られた 2 つの領域でのみ高比抵抗・低位相の周囲と異なる異常域を検出した。この空間変化は見掛比抵抗などの時間変化に比べて十分に大きく、観測された空間変化が有意であることが分かる。異常域近傍では常に淡水湧水のある水場やシーページメーターの観測により淡水湧水の存在が確認されている。潮の干満によって地下の構造が大きく変化していることから、地下の淡水の存在が示唆される。よって、VLF-MT 観測で得られたスポット状の高比抵抗・低位相の領域は、淡水の湧水域を捉えたと考えられる。講演では、VLF-MT 観測に加え、電気探査の結果も合わせて報告する。